

■『木琴デイズ』通崎睦美著

日米を股に掛けて活躍した木琴奏者、平岡養一の評伝。

1907年生まれ、平岡は独学で木琴を習得し、30年に渡り米。41年の真珠湾攻撃までの10年間、朝のラジオ放送で生演奏を続け、「全米の少年少女は平岡の木琴で目を覚ます」と言われた。戦後は日本において、温かい木琴の音色で人々を魅了し、国民的音楽家となる。次第にマリンバに主流を奪われていく中で、最後まで木琴にこだわり続けた平岡の「木琴人生」を描き切った。(講談社 1995円)

